



ぶどうのささやき

16号

2013年
8月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

知恵の出し方

トヨタ自動車東日本株式会社 名誉顧問 内川 晋

(元横須賀商工会議所 副会頭)



何か書くようにと云われて「ぶどうのささやき」とは何ですか?と事務局に尋ねた。「産業クラスターのクラスターは、ぶどうの房から来ています」と教えられた。房のかたまりの中で一粒々々が成長することか合点がいった。

“ささやき”だが、もう長いこと、ささやいた事もなければ、ささやかれた事もない。

あらためて考えた。この口の廻りに耳が三つも集まっている漢字についてである。

余っ程聞きとり難いか、さもなければ聞き洩らす訳には行かないとんでもなく大事なことが口から出てくるのかと。私は後者に加担したい。

さて顔の造作のことだが、口は一つに対して目と耳は二つついてる。造物主の傑作の妙だと心得る。よく見てよく聞いて、そして大事なことを口からほんの少し出すようにと。もっとも口が二つついていたら異口異音になって収拾がつかなくなるにちがいない。

仏様を四隅の四天王がお守りしている。その中に広目天と多聞天がいる。よく見、よく聞いて仏様の誤り(?)のない行動に資しているに違いない。

落語の世界にある。すごくシブチンの人が居て、二つの目を同時に使うのは勿体ない、一つずつ使って長もちさせようと考えた。片目だけである時間の後、もう片方に切り替えたなら何も見えなくなったというオチである。二つの目、二つの耳は必然である。

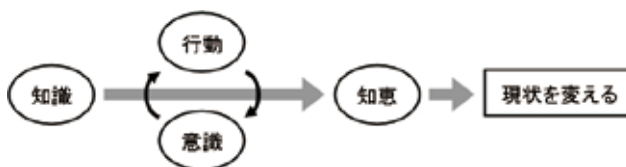
人生は、聞いたり、見たり、試したりの連続である。百聞は一見にしかず、百見は一行にしかずという言葉がある。けだし名言である。通り一遍では何も見えていない。通り五遍で果たして見えて来るか。皆

さんをして同じ通りを五遍も歩かせる力は何処から出てくるか。

皆さんはそれぞれに何らかの生業を営んでおられる。順調な時ばかりではないかもしれない。躓くときもあるかもしれない。もっけの幸いである。チャンスである。当面する課題、問題をなんとか解決しなければならぬ。二つの耳と二つの目が活躍する絶好の機会であると ~もっとも日常的に鍛えた結果だが~ 知るべきである。

現状を変えなければならぬ。変える力は何か。“知恵”である。

次の図は、私なりの解釈での知恵の出る構造を示している。



人生は、聞いたり、見たり、試したりの図である。知識は、耳と目を通して吸収される。我々は俗に“勉強する”と表現している。勉強と試行錯誤が大きな知恵になり現状を変えることに繋がる。

ぶつかったら勉強すること。

ぶつかることを避けず、積極的にぶつかること。

そして最後に“こうしたんですよ”とそっと囁くこと。

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

平成25年度活動方針について

日銀横浜支店が7月に発表した県内短観によれば、大企業は改善の方向ではありますが、中小企業にはその恩恵がまだ及んでいない状況です。

一方、円安・株高や消費マインドの向上、設備投資状況等には明るさが見え出したのも昨今の状況です。

このような景況を踏まえて、地域企業等への接触を広め、より効率的な支援活動を目指します。また、目線を市民レベルに置き、地域に密着した「新しい公共支援部会」を設け、支援活動の裾野を広げるとともに、地域経済活性化に係る中小企業支援や環境・海外関連・産官学連携などの支援にも地道に且つ期待に反しないように活動する方針です。

幸い、役員は前年度から全員留任し、新役員も加わり、さらに個人会員には複数の企業OB専門家が入会され、支援活動の厚みが増しました。

2年続きの赤字決算など難しい経営環境にはありますが、新たな活動体制を構築して認定NPO法人として粘り強く支援活動を行い、確実な成果を挙げるよう努力いたします。

次に、各種活動状況を記述します。

(1) 企業支援事業と海外関連事業について

横須賀・三浦地域と近隣の中小企業との補完関係を構築し、多数の中小企業を訪問し、支援企業の拡充を図る。

- ① 地域金融機関と連携した地域中小企業の課題解決の支援
- ② 個別支援とは別に包括的な企業支援の普及と実践
- ③ 地元と企業に対する横須賀商工会議所と連携した米軍入札の支援

(2) 環境支援事業と産官学連携支援について

- ① EA21の認証登録やISO認証取得の支援
- ② 環境・エネルギーに関する小中学校への教育・啓蒙活動

理事長 木下 武



- ③ 横浜市立大学 CSR センター LLP よりの委託契約事業のサポート

(3) 新しい公共支援について

- ① 講演会・セミナーの企画開催
- ② 行政協働事業の受託、例えば、市民協働セミナーへの応募
- ③ 農業・漁業分野への支援活動の展開

(4) PR活動の強化と会員の増強について

- ① 会報誌とホームページを媒体に当会紹介と会員募集を行なう。
- ② 会報誌の発行。特に17号は当会設立10周年を記念する特集記事を組む。
- ③ WordPress(随時書き込み方式)を活用した明るく・楽しいホームページの制作に努める。

(5) 他団体との連携強化について

地元団体や「横浜市協働事業の交流会」を通じて、相互に企画するイベント・行事に招待・参加し、情報交換や協働事業を構築する。

当会は創立10周年を来春に迎え、2月中旬に記念行事を開催します。地域経済の活性化に寄与する認定NPO法人として今後も発展するよう心掛けるとともに、皆様方からご信頼を得るよう全員一丸となって支援活動に当たります。皆様方からの倍旧のご支援・ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

【歳時記】

ワインとの出会い

ワインの歴史はおよそ八千年前、現在のグルジア共和国で世界最古のぶどうワインが醸造されたと云われている。私とワインの出会いには二十四年前(一九八九年)。それは、米国のアトランタへの出張の機内から始まる。隣席には上品な初老の夫人。日本人に嫁いだ娘に初孫が生まれ、一週間の日本滞在のこと。

機体が水平飛行に入ると夕食が運ばれてきた。私は食前酒にシェリー、夫人はシャンパンを。「ワインはお好きですか」と聞かれ、「好きです」と答えると、「デルタ航空には、とても美味しいワインがあるので一緒に飲みましょう」と誘われた。食事が二人とも肉食なので赤ワインが選ばれると思っていたが、運ばれたのは、緑がかつた黄色、香りのよい酸味もある辛口の白ワイン。とても自分の味覚に合った旨いワイン(酒)と今でも鮮明に覚えている。話も弾み、二人で三本、四本と空けた。よく飲んだものだ。私がひと眠りする間に、夫人がボトルのラベルをきれいに剥がし、記念に持って帰りなさいと言ひ、そのワイン銘柄とワインの蘊蓄まで話してくれた。記念のラベルは夫人の写真と共に、大切に保管している。銘柄は、「de Ladouette」(ドウ・ラドウセツト)で、フランス・ロワール河流域の一七八七年創業の老舗。白ワインではトップクラス、日本でも五千円位する高級ワインである。当時は「蜂ぶどう酒」感覚の自分が、これを機に、ワインとの本格的出会いとなった。夫人はポートランドで降機し、私はひとりアトランタに向かった。

出張は、某会社の工場落成祝い。式典後の記念ゴルフが、なんとワイナリーと隣接する「Chateau Elan」という所での開催、初めてのワイナリー見学となる。なんとも偶然なことである。時は十一月初旬で、今年採れたブドウの樽仕込みの初物赤ワインを試飲。つまり、米国版ボジョレ・ヌヴォーを体験したのだった。アトランタ郊外の紅葉は素晴らしく、周辺民家の玄関ポーチにはハロウインの大きなカボチャと飾り。とても印象的であった。

私のワイン季節感の晩秋。毎年、過ぎし日の写し絵が重なるボジョレ・ヌヴォーの解禁が待ち遠しい。

出合いの時は 白赤飲んで

今では健康 赤ばかり(昭)



法人会員紹介

オーバルの流れを世界へ 「流れに価値を加えます」

当社の社名は、「オーバル・ギヤー」(楕円形歯車)に由来します。オーバルギヤーはロータリーエンジンやギヤーポンプに用途を求めて日産自動車元社長の故村上正輔氏が考案されたものですが、高速回転で使用するのが困難で、実用化には至りませんでした。



この技術を流量計に応用したオーバル歯車の企業化を目指し、創業社長である加島淳が昭和 24 年に創業した流量計及び関連機器、システムの専門メーカーです。

横浜事業所は横浜市の南側、金沢区の臨海工業団地にあり、主に工業用流量計並びに関連機器の生産工場に加え、研究開発・技術部門、及びサービス部門をもつ複合事業所です。各種流量計の精度管理に貢献する試験設備は国内随一を誇ります。また、品質管理の国際規格である、ISO9001 及び環境マネジメントシステム規格 ISO14001 の認証取得事業所、計量法校正事業者登録制度 (JCSS) の登録取得事業所として一層の努力を重ね、ユーザー各位の価値創出に貢献すべく挑戦を続けています。

石油などの容積を測る単位を Barrel (バレル) であらわしますが、これは「樽」という意味です。つまり、かつて液体を計量する計器は容器 (樽とか枡) で行っていました。現代は、流量計を使用し、連続して計測を行って効率を上げ、正確さを管理できるようになりました。需要の多様化から液体だけでなく気体、蒸気の流量計測分野にも対応、また質量流量だけでなく密度、温度も同時に計測できる多機能流量計測の開発やその他の流量計測の進歩を図

株式会社オーバル 横浜事業所

〒236-8645

神奈川県横浜市金沢区福浦 1-9-5

TEL : 045-785-7260

FAX : 045-781-9920

URL : <http://www.oval.co.jp>



り、業界の主軸として貢献しています。当社は「流れに価値を加えます」をコーポレートメッセージに掲げ、石油、石油化学関連、環境・省エネに対応する機器から食品・化粧品・医療品の業界、半導体等の多業種に採用され活躍しております。

そして、オーバルのベンチャー精神は、世界への進出でも発揮されています。すでに中国・韓国・台湾・シンガポールにそれぞれ合弁会社を設立し、販売と一部現地生産を行っています。また、アジアを中心に多数の代理店を設置し、その国際的なマーケティング活動の領域はさらに拡大しつつあります。一方海外数社とも技術提携し、情報交換と技術協力を促進し、相互の技術力の向上や製品開発、セールスプロモーションなどに多くの成果をあげています。

2011 年 7 月に東京計器、長野計器、チノー、オーバルの 4 社が協業し、海外水市場の開拓を主な目的として業務提携を行う基本合意を締結しました。その後、4 社で構成されるプロジェクトチームにおいて具体的な販売・技術・生産・サービス・物流等の協業体制の構築・整備に着手し、さらに具体的な施策を推進するために、5 つの専門プロジェクトチームを発足させて海外市場開拓の早期展開を図っています。

そして 4 社協業を象徴するブランド「BLUEDGE (ブルーエッジ)」を立ち上げました。今後、相互販売の対象となる各社の商品や新たに共同開発されるシステムの銘板、カタログ、広告などに BLUEDGE を使用することで 4 社協業の結束力を高め、BLUEDGE に込められたブランドメッセージを発信していくことで海外での水ビジネスを優位に押し進めていく方針です。



海外関連事業部会 — 翻訳・言葉一つずつが試練 —

ほぼ10年前の産業クラスター研究会設立後、時を経ずして海外関連事業部会が活動を開始しました。発端は、当時は地元の中小企業の海外取引がかなり活発でその支援を依頼されたことと、米軍入札に応札する地元企業の支援を要請されたことから、現役時代に各社で海外業務経験のある個人会員が集まって対応を開始したことで自然発生的にスタートしたものです。現在では時節柄、どちらかという米軍入札支援に対象が集中していますが、やはり英語を正しく理解し、日本語をどう正確に英語に訳すかが常に変わらぬ命題です。

入札支援についてはこのほか英語の読解、提出英文の内容吟味・訳文などに間違いがあつてはなりませんから、部会員は絶えず得た知識を忘れないよう、また自身の能力を高めるように努力しております。今回はその一環として当会HPの中に連載し始めた「翻訳ひとこと」欄を紹介します。

部会では、月例の会合で時間ある限り部会員の勉強会を行っていますが、やはり重要なテーマは「失敗に学ぶ」ことでしょうか。しかもすごく単純な事項で言葉が変わると致命的な意味の取り違えが生じますのでこの点を繰り返して「学習」しています。

日本語では殆ど意識することのない英語の冠詞“a”“the”は仕様書のような技術資料では殊更要注意です。例えば装置が一台なのか数台あるのかが英語では冠詞によって決まります。日本語では「当該装置でこの危険を防ぐことができます」とあつても英語では装置が何台あるかをまず表現しなければな

りません。経験豊かな英語の達人でも日本語を読むだけでは理解できません。どうするか。

もう一つは武士道の「道」にも似た日本特有の広汎な意味を含む一つの単語をどうするかということがあります。特に近年では、昔から漢字が使われていたものをわざわざかな(カナ)書きとして特別な意味を持たせるものが増えてきました。例として「翻訳ひとこと」にあげたのは「ものづくり」です。「ものづくり」は当部会活動開始以来悩まされ続けている言葉で単純に英単語数語ではその意味を言い尽くせません。「作る」ならば manufacture、produce や make など数多くの英語がありますがどれをとってもわが国の「ものづくり基盤技術振興法」で示された「ものづくり」や著名各企業で自社の経営方針の中にもとりあげられる「ものづくり」に対応し切れません。最近では「コトづくり」まで現れました。

ものづくり =
make? or produce? or

私たち海外関連事業部会では、このような翻訳作業で実際に遭遇する事柄を「しつこく」追っかけて部会共有の知識として蓄積し次の作業に生かしています。

HPの「翻訳ひとこと」は短文です。是非皆さまご覧になり英語が必要な時の参考としてください。

(部会長 大久保 全勝)

事務局からのお知らせ

- 平成25年度総会が5月28日、産業交流プラザにて開催され、平成24年度決算、平成25年度予算及び新役員が提案・審議され、原案通り承認されました。新役員としては平成24年度の理事の再任と新理事として加藤幹雄、金子賢一の両氏が推薦・承認され、監事としては白井朗氏の再任と片岡祐二氏と新井全勝氏が推薦・承認されました。
その後開催された理事会において理事長、副理事長が互選され、理事長として木下武理事、副理事長として富野養二郎、阿部昭彦、佐々木興吉の各理事が再任されました。
- 入会者の紹介
個人会員 伊橋俊彦(横須賀市在住)、徳山昭仁(船橋市在住)、
片平悌一(横浜市在住)、青木伸一(横浜市在住)
- 個人会員の活性化を目的に新たに発足した「粋に生き生きクラブ」が6月4日に開催され、青空の下、馬堀海岸にてバーベキュー大会を行いました。
- 第1回クラスター経営研究・懇談会が7月16日、産業交流プラザにて法人会員9社、個人会員11名が参加して開催され、株式会社ヘリオス富野社長から提供していただいた話題を題材に直近の経営課題や問題点について懇談しました。

(事務局 佐々木興吉)

産業クラスター研究会の「活性化」の第一歩は“C₂H₅OH,,

公益団体やNPO法人は、時間的に余裕のできた人が、まだ元気で何か社会貢献ができないかと集まって、自分の得意な分野で貢献するボランティア活動をしています。

従って会社のように収益を上げる分野に目的を絞り、組織の方針に従って汗水を流すのとは少し違います。一堂に会して物事を進めることは少ないので共通部分のある人たち以外は、意外と接触が少なくなっています。

そのため社交性・活発性に欠ける部分が現れてきて、当会では前々から心配し、「会の活性化」の方策を模索していました。しかし人間である以上、語り聞くことが大切であると、言うことになりました。

人生・趣味・文学・芸術・スポーツ・政治経済を、何でもよいかから皆で語りそして聞き、相互啓発・自己啓発して「人間とは、自分とは何者ぞ」を発見して、世のため人のために何ができるか、社会貢献を見つける場を作ろうとA理事が提唱されました。



そうなる日本社会では「仕事の後の一杯」が一番です。最近の現役の人はこの部分が欠けると言われていますが、シニア世代の我々は得意とするところであるため、話はスルスルと進み総会が無事終了した一日、「缶ビールとつまみ持参の会」をキックオフすることとなったわけです。

それでも、はじめからコンクリート部屋では堅苦しいので、自然の真ただ中の馬堀海岸でバーベキューをやることになりました。幸い天気も良く、少々強い潮風を受けながら10人近くの方々が、晩酌用のアルコール類や摘みに家庭菜園で作られた野

菜等を持ち込んで、かなり若返った気分で楽しく懇談して活性化の第一歩を踏み出しました。



まず個人会員から始めましたが、法人会員の方々にも大いに語っていただきたいと思い、一ヶ月ほど過ぎた日の夕方に産業交流プラザに法人会員の方々にお集まりいただきました。持ち込んだ缶ビールと乾き物のつまみで軽く一杯やりながら、初回は(株)ヘリオスの富野社長さんに自社の様子と社員の採用と採用取り消しに関するトラブルで、大きな時間と金銭的なロスを強いられたお話をしていただきました。考えられないことが身近で起っていたこともあって、その後の皆さんの懇談が積極的に進み盛会のうちに終わることができました。

引き続き次回から各社交代で自社の悩み・困惑したこと・成功したこと・楽しかったこと等、色々と話題を出していただき、会員相互の親睦を図っていきたくと思っています。

会社幹部の方々だけでなく中堅及び新人の方々も参加していただければ、増々充実したものになってくると考えています。

雑談の中に皆様方が協力すればできること、防げること、教え合えることなどが出てきて各々の企業のプラスになることが出来ればうれしい限りです。また、そうあってほしいものです。

こうしたことの繰り返しにより、何となくおとなしく活発性を表に現わさなかった産業クラスター研究会の活性化が図れば、会員相互の機動力も増進するのではないかと思います。その原動力はやはり「C₂H₅OH」アルコールです。でも飲みすぎには注意しましょう。

(新しい公共支援部会 部会長 加藤 幹雄)

トピックス

何故環境か、省エネ (LED) か

地球は海の面積60%以上、陸の面積30%以上、双方の資源と生き物を人類71億人が、20世紀の中期には消費は美德として、資源有限にもかかわらず無秩序な社会生活に使用、自然の摂理に反抗し、破滅に向う消費のあり方は嘆かわしく、今や内外に向けて地球と人を大切にする啓蒙活動を起こし、内に向けて今こそ先人の「清貧」、中野孝次書によれば、生活を極限にまで簡素化し、心の豊かさを求めた我らの先達、西行・兼好・大雅・良寛など清貧に生きた人々の系譜をつぶさにたどり、今いかに生きるべきか清貧の思想の中から、新たな文明を立上げなければならない。

以上のことを踏まえて、私は省エネ第一〔ゴミゼロ、電気料金半分(取替え費用含む)、価値2倍〕を基本に地域・国家に貢献できる、環境金融ビジネスを立ち上げ貫徹する。

最近の実績としては、官庁に対して省エネを推進、水銀灯が使われている敷地内街路や体育館や格納庫をLEDに交換、又住宅団地に省エネを啓発、街路灯と建物内にLE

D交換、40%以上のコスト削減に成功、其の上交換需要があれば、地域の電気屋さんと共に営むことが評価され、口コミで新たに住宅団地から受注しました。



株式会社 大倉物産
代表取締役社長 宮崎 正男

<環境事業部会より>

25年度より、「省エネ(LEDの利用)推進業務」を新設しました。法人会員・(株)大倉物産の支援を得て、学校、地域住民(マンション、住宅)、中小企業、公共施設などに分かり易い省エネの啓蒙・教育・推進を講習会や説明会を開催して行います。どうぞ、お気軽にご相談ください。

部会長 阿部昭彦

Windows XP サポート、2014年4月9日終了

中小企業・教育機関向け低価格対応サービスの開発について

2013年7月、創立36周年を迎えた当社は、この度新規事業を立ち上げました。

Windows XPを始めとした主要PCのサポート終了・新機種導入により不要になったPCを、オフィスの悩みに合わせてカスタマイズすることで再活用するサービスを始めました。「便利だけど買ったら高い」ものへコストを抑えて再利用する“生まれ変わる”をサポートする事業です。

主な Windows の製品サポート終了日	
Windows XP	2014年4月9日
Windows Vista	2017年4月11日
Windows 7	2020年1月14日
Windows 8	2023年1月10日

企業だけでなく、教育機関や自治体には、サポート終了が迫るPCが非常に多く存在し、新機種導入の予算に頭を

悩ませているのが現状です。そのサポート終了が迫るPCを、新たにシステムとして活用することにより、情報共有、集客力アップ、コスト削減など、低価格で実現することが可能となります。

既に横須賀商工会議所様では運用を開始しており、PC移動の自由化、情報共有、コスト削減を実現しております。

将来、ハード、ソフトが一体となり、自社開発を目標とする当社の出発点としてご紹介させて頂きました。お役にたてることがありましたら、ぜひご相談いただけましたら幸いです。

末筆となりましたが、これまでの皆さまの暖かいご支援とご厚情を賜りましたことに対して、重ねて御礼申し上げますと共に、今後ともご指導・ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

日本電子エンジニアリング株式会社
代表取締役 高橋 榮一

発行：内閣府認証・国税庁認定 NPO 法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 / 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

Tel : 045-781-8025

E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武